

文科省に聞く！

大学の国際化が日本社会にもたらすもの

私の地元秋田県には優れた伝統工芸品や農作物がいくつもあります。いくらよい品でも国内の需要は頭打ちで、従来の売り方を続けているのは苦しい経営を強いられます。そこで県は、国外へと目を向けました。世界的に著名なデザイナーと組んで漆器をつくる、各国の富裕層をターゲットにした高級果物を売り出す…。今やそうした国際的なネットワークが、産業の発展には不可欠です。

この光景に、日本の大学が国際化すべきだと考える理由が端的に表れています。少子高齢化による生産年齢人口の減少、東京一極集中と地方の衰退などの日本が直面する問題は、もはや自分たちの力だけで乗り越えられるものではありません。であれば、未来を支える若者にはグローバルな視点が必要であり、その教育を担う大学の国際化は、国の命運を左右する「死活問題」とさえ言えます。

協定をいくつ結ぶとか英語の授業を何コマ増やすとかの表面的な話ではなく、グローバルな視野で課題解決に当たることができる人材を、全国の大学と共に「本気」で育てたい。その思いで、当省は試行錯誤しながら施策を講じてきました。「グローバル30」は採択大学の国際拠点化を強く推し進めましたが、そこだけで活動が閉じる“出島”になってしまった面があります。「GGJ」「トビタテ!留学JAPAN」によって留学の派遣・受け入れが全国的に活性化しましたが、人的交流だけでは競争力は付きません。海外の人々に積極的に選んでもらえる国にする競争力ある高等教育文化を根づかせようと「SGU」を提唱しました。

例えば研究者の獲得競争。世界市場に高額オファーがひしめく中で、募集広告に「給与は本学の規定に基づく」としか書かれていない大学を選びたくありません。留学先を選ぶときに、留学生専用の寮に住み日本人と分かれて授業を受けるような大学は魅力的でしょうか。日本の大学にはまだまだ、日本に来ると可能性が広がると思わせるだけのしくみとマインドセットが備わっていません。「SGU」は、教育・研究と地域のグローバル化の2つの面で、「世界に選ばれる、世界と共に歩むとはこういうことだ」と身をもって示す大学を日本各地につくり、それを起点に地域社会を変えることを意図した取り組みです。例えば採択校の一つ、立命館アジア太平洋大学がある別府では、コロナ禍で困っている外国人留学生を助けようと地域の方々が食べ物を持ち寄りしました。こういう事例を、もっと全国に増やしたいのです。

ポスト「留学生30万人計画」の課題は？

アウトカムの検証・明確化とダイバーシティ・マネジメントにあり

高等教育局主任大学改革官
高等教育国際戦略PTリーダー
国際企画室長

佐藤邦明

さとうくにあき ●1996年秋田県庁に入庁。国際教養大学の設置準備・運営等に関わる。2009年文部科学省に転籍し、大学の国際化を推進。2019年4月から国際企画室長、2020年7月より主任大学改革官、高等教育国際戦略PTリーダー。



コロナ禍で露呈した質保証の問題

コロナ禍により人的交流が止まったこと、特に派遣留学の中止は、確かに大きな打撃でした。自身の留学経験を振り返ってみても、現地の空気を吸うことで初めて理解できることが多々あります。安全かつ自由な交流の再開に向けて、関係各所に掛け合っているところです。ただ、コロナを経て得た収穫も少なくありません。オンラインで世界といつでもつながれることを、私たちは身をもって理解しました。COILがよい例です。これまでは補完的な使われ方が多かったように思いますが、現在は授業の主軸として使われ始めました。

教育面での今後の課題は、学生のグローバル志向を失わせないため、また国内でグローバルな視野を身に付けさせるためのしかけの組み込み方と、その質の保証でしょう。決定的な打開策はありません。世界中の大学が頭を悩ませています。個人的には派遣留学を完全に代替する方法はないと思っていますが、逆に言えば、留学を通して育ててきた力にはどんな要素があるのか、何が代替できて何が代替できないのか、アウトカムを検証し、明確化する機会が訪れていると言えます。当省としてもオンライン化を含む教育改善を支援するとともに、「オンラインでもここまでできる」という日本の教育の強さを表す事例を集め、国内外に発信することを検討中です。

オンライン化の進展に伴って顕在化したもう一つの課題が、ダイバーシティです。障害を持つ学生や経済的に困難な学生が、機器を操作できない、購入できない状況に直面しており、学びの平等性が課題となっています。周りを見渡せば、外国人労働者が増え、国際結婚も珍しくなくなり、LGBTが注目され始め…とダイバーシティが求められる場面が至るところにあります。これらの課題を適切にマネジメントする力は世界中で必要とされており、日本でそれが身に付けられるとなれば、来日をめざす大きな魅力になり得るでしょう。全国の大学が、その拠点となることを期待しています。